



山門前の参道で参拝者を迎える狸像

日帰り研修旅行 平成28年10月3日(月)

『茂林寺参拝』と 国宝・妻沼聖天山 歓喜院を巡る

(上) 伝説の「分福茶釜」、
そうなたぬきの石像



(下) 境内で番古



「分福茶釜」伝説を聞く参加者 (円内は古川正道老師)

今年の日帰り研修バス旅行は、群馬県館林市の曹洞宗・青龍山茂林寺を訪れました。西暦1730年(江戸中期)建立の本堂で、住職の古川正道老師から、「分福茶釜」伝説の起源などの説明を受け、御本尊を参拝。伝説の茶釜が寺宝として安置されている寶物室を見学しました。

その後、JA邑楽郡ふれあい食彩館・ミートセンターで買い物を楽しみながら、昼食の会場「つかさ」へ。懐石料理の昼食では、ロー

買い物を楽しむ参加者 (茂林寺門前)



ストビーフや名物の館林うどん、うなぎ丼などおいしい料理に舌鼓を打ち、品数も大変多く全員満腹で終了。

午後からは、埼玉県熊谷市にある国宝・妻沼聖天山歓喜院へ向かいました。本殿は西暦1779年建立で、平成15年から23年の8年間を要して修復工事が施され、

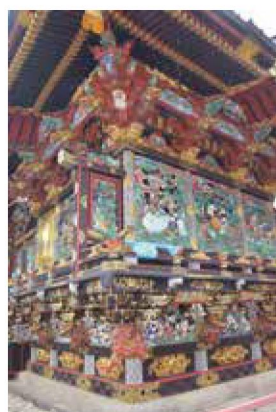


茅葺きの茂林寺本堂

平成24年に国宝に指定されました。ボランティアのガイドさんの説明を聞きながら、埼玉の日光といわれ、極彩色が施され見事に彫刻された奥殿伽藍を透塀(玉垣)内から拝観しました。

聖天山を辞した一行55名は、「道の駅めぬま」を経由し、午後7時過ぎに萬福寺に到着しました。

見事な彫刻が施された奥殿



国宝・妻沼聖天山歓喜院本殿